

小學

新讀本

笠間益三編輯

卷三

1208
3

1026685

所妹姉第



小
新讀本卷之三



笠間益三編輯

兄と弟ハかの地へちま 姉

と妹ハ未の所へまゐる ○昨

小
新讀本
卷之三

昨日今朝
客里今居

日はおく人をお送り 今朝
はきたる客我むかふ○古は
さびしき里ふをみ 今ハに
ぎやお別る都に居る○兄を
志むらく空をまり 弟ハや

かてかへる屋ー○いまふか
た所へとゞかび ほせかく
木の所へいたらん○姉もつ
つがなく 妹もすこやかな
り

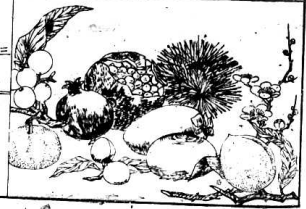
第二課

實 柿 蜜 柑 桃

うめ此花とあ、此實○くり
此いがと柿のーぶ○すえ、
と柿とハ何かく びもや蜜
柑ハまなり○桃の實ハ何ぢ

〇

ハひ何まく
梅の花ハかを
りを志○びハ
の花ハ冬ひら
ま ざく梅の



秋 甘 又 有

實ハ秋ドウクモ○くぐも
ハ甘きモ有り 又すきも此
も有るなり

第三課

湊小何まゝ此船とまきり○

湊 船 島 鳥 牛 柳 草 小兒 魚



島小おほくの鳥
あつむれり○牛
ハ柳のかげに草
をくひ 小兒ハ
川此まゝに魚を

小舟
三
四

高 雪 深 海

つるを盛り○高きみねハ春
も雪とけば深きたにふハ
ひでりふも水阿り○下ーづ
くの水を何つままで川をお
す○川の水ハせゝきて海ふ

いる

第四課

田 麥 畑 稻 糯 粳

いねハ田ふうゑ
麥は畑ふまく○
稻に糯と粳との



小行賣本

卷之三

五

大麥 小麥 大豆 中 米 牛蒡

わかち有り 麥小大麥と小
麥と何里○豆にハ大豆小豆
さ、げな^があり○豆はみか
きやの中ふみれり 米麥ハ
ほのさきふみのる○牛蒡犬

大根 藥種 蕪 芋 葱 姑 穀物 野菜



根、胡蘿蔔ハながく 蕪芋、葱

姑ハまろし○米
麥、豆のたぐひを
穀物といひ 大
根、牛蒡芋のたぐ

ひを野菜といふ

第五課

茶 桑 楮 ニ又 根

茶や桑ハはをつみ 楮や三
又ハかはをむぐ○冬づハ根
をせり 冬下ハ實をじる○

葉 皮 紙 葛 葛粉



桑の葉ふてかひ
木をかひ 楮や
三文紙皮ふて紙
をすく○葛のね
より葛粉をせり

小行書本 卷之三 七

蠟 板 桐 蟲 且

蠟の實より蠟を志ほる○

松の板ハねむくして木をく

又みつけふたへてたもち

よー○桐のは

木ハかるく志



て蟲つうげ 且ーめりけを

きくるふと縁ー

第六課

なよね或ハ山茶の實より油

を堂り 生糸ハ蚕の繭を

或 山茶 油 生糸 蚕

童子立朝入出四方北南西東

知時夜昼

東西南北を四方といふ○日
の出る方ハ東ふして 日北
入る方ハ西なり○北に朝
日小むけひて立てる童子何
り○筆_たたてる方ハ南ふて

本を立てる方
ハ北かり○日は
昼をてらし 月
は夜をてらし○
日のある所はひびく



外行賣本

を晝といひ 日北入りたる
のちを夜といふ ○冬らき時
ハ夜なる事と我知り 阿か
るき時ハ晝なるとをさぞる

第八課

池 淺 深 河 流 溜 池 用 釣 瓶

池ハ淺く井ハ深く河ハ流る

○溜池の水はわ

びを用ひてむき

井の水をくむ

ふも釣瓶をーか



堰溝掘其勢水力自水車工夫

け 河の水は堰をきつゝ溝
を掘りてせゝぐ○流るゝ水
ハ夜昼や漏ず 其勢をかき
ば人此力ををぶく○
水車ハ人の力によら



ず水をうけて自らめぐる○
されどもおれを 工夫せしハ
人のち直なり

第九課

かの遠き村ハ家を去くなく

遠 村 家 少 近 町 多 二階 平屋

屋 葺 瓦 茅 藁 在

平屋 二階 多 町 近 少 家 村 遠

人とも少し。○此の近き町ハ人
の家もたなまが多し。○家は
二階つくりも有り平屋もあ
る。○町ハ家はちほくは屋根
板又ハ瓦ふてふき 村の家



小竹賣木

巻之三

十三

はたも小茅或
ハ藁を以て葺
く。○都ハは澤
山の町つきて
あり 鄙ハ村

都

農業

商賣

工藝

都鄙

之

勤

者

又原野の在る所あり○村の

人ハ農業を以て之 町の人

ハ商賣をいせむ○工藝は

都鄙のわかちなく之を勤む

○大いにて人も人たる者は各

各職業

職業を勤めはむを

第十課

父

祖父

母

祖母

おやの父を祖父といひ お

やれ母を祖母といふ○をお

やおやの兄弟よて我むハお

親子共真樂睦家基
族



學語詩本 卷之三

の姉妹なり

○親は子をい

つ々しみ子

親をうやまふ

○兄は弟をい

たも兄弟は兄ふ志々がふ○

父母共ふねがうへ兄弟つゝ

がふきは眞の樂かり○親族

の睦まじきは家此をかちる

基なり

小行書本

卷之三

第十一課

我邦 今 太平 治 波 此圖 戸

我邦ハ今は太平ふしてよく
治まれ里 山もいづかふ海
もたふやうふして波風た
い 都も鄙も家家不死はひ

國旗 紀元節 養節 同 家業 休 祝 奉

人人たれしむ
○此圖をみよ
戸がとふ國旗
をかげしり
紀元節なら



小折書本 卷之三

青 黄 赤 白 黒 五色 山吹 鴉



ふ○山吹の花を
黄ふして花は葉
青し○鴉は黒
きと墨のぶとく
をぎは白きと

御新詩
卷之三

はげば天長節ならん 木の日は
はいげくたもても 同トく家
業成休みて、祝ひ奉る所至

第十二課

青黄赤白黒を五色とい

朱 彼此 色 生 淡黒 紺色



雪ふにたり○さくろ此花の
赤きこと朱又ハ藍にふ同ト

○五色を彼此ま志
ふ志はを多し此色
生ず○青と赤と

をふトふ志は紫とあま紫
ふ淡黒を何とをれハ紺色
形るべし

第十三課

手習ヲナシテ文字ヲカク

手習

ヲ覺工 算盤ヲ習ヒテ物ヲ

文字

覺

カヅフルヲ知ル○石筆ヲ

算盤

以テ石板ニ字又ハ画ヲカキ

石筆

紙ニウツスニハ筆アルヒ

石板

鉛筆

ハ鉛筆ヲモチウ○コノホカ

學校

學校ノ器具ハ

器具

机

机腰掛塗板ノ

腰掛

類アリコト

塗板

サラ丁寧ニ取

類

取

アツカフベシ



小新書本

車論 卷之三

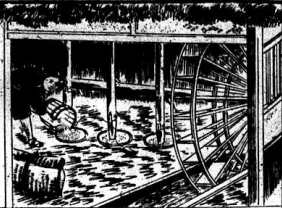
損 勿

○カクソメニモ損ヒケカス
コト勿レ

第十四課

車ニ水車人力車荷車ノ稱アリ
○水車ハ水ノ力ニヨリテ

人力車 荷車 稱



メグリ○荷車
ハ荷物ヲノセ
人力車ハ人ヲ
ノス○コヽニ
畫ケルハ水車

水車

三

學新語

様々

ニシテ様々ノ仕掛ヲナセリ

仕掛

○小屋ノ内ニアマタノ白オ

小屋

内

ヨビ礮ヲ据付ケタリ○コレ

礮

ハ米多ツキ或ハ麥ノ粉ヲ製

据付

スル所ナルベシ

蒸氣船

第十五課

帆前船

船ニハ蒸氣船アリ、帆前船ア

邊

リ○烟ヲハキテ遥ニ沖ニハ

沖

シルハ、蒸氣船ナリ 帆ヲア

港

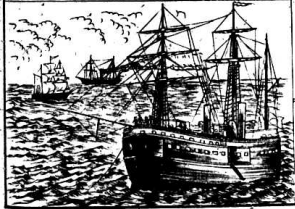
ゲテ港ニ入り來ルハ帆前船

小舟

卷之三

十一

見 砲門 側面 其 軍艦 錨
 ラン 其側面
 ル 船ハ軍艦ナ
 タル一ノ大ナ
 ロシ帆ヲマキ
 ナリ○錨ヲオ



甲版 軍服 着 臺兵
 ニ砲門アルヲ見テモ知レル
 ルナリ 又ソノ甲版ニハ軍
 服ヲ着ケタルアマタノ海軍
 兵アリ

第十六課

別行

卷之三

子二

吹 雨 強 咲 散 茂 霜 枯 年 老 身 體 物 事 悟 亦



風ハゲシク吹キ、雨ツヨクフ
ル○強キ雨フリテ、河水オホ
ヒニアフル○咲キタル花モ
風吹キテ散リ 茂リタル葉
モ霜ニアヒテ枯ル○スコヤ

カナル人モ 年老
ユレバ身オトロ
フ○人ハ身體オ
トロフレバ物事
ヲ悟ルモ亦ニ

故 勤 後 悔 及

ブクナルモノナリ 故ニワ

カキ時勤ノ學バザレバ老イ

テ後悔ルモ及ビガタシ

第十七課

床ノ上ニカサ子タル本ハ厚

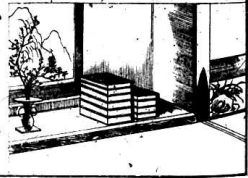
床 クシテ其表紙ハ

厚 ウスシ○スベテ

表紙 本ハ紙ヲトヂテ

作 作ルナリ○コノ

糸 本ヲトヂタル糸ハキ又糸ナ



糸行書本 卷之三 五

絹糸ハツヨクシテ光澤アリ○ワレクノ衣服モ上等ノ品ハ絹糸ヲ以テ織レリ

絹糸

光澤

衣服

上等

品

織

木綿

温

凡

ラン 絹糸ハツヨクシテ光

澤アリ○ワレクノ衣服モ上

等ノ品ハ絹糸ヲ以テ織レリ

木綿ヲツムギテ織リタル

衣服ハ温ニシテタモチヨシ

美

清潔

○凡衣服ハ美ナランヨリモ

清潔ナルヲヨシトス

小行書大

二十五

學新讀本卷之三終

明治二十年四月七日版權免許

同 年十二月 訂正出版

定價
五錢

福岡縣士族

編輯人

笠間益三

福岡縣筑後國三池郡
橘村七百二十五番地

東京府平民

出版人

叔本七百九

東京日本橋區本町四丁
目十八番地